

議会報告会報告書

開催日時	平成29年4月13日(木) 19:00~20:45
開催場所	松本大学
出席議員	勝野智行、青木崇、川久保文良、吉村幸代、村上幸雄、上條温、上條俊道、犬飼信雄、阿部功祐、澤田佐久子、宮坂郁生、忠地義光、犬飼明美、大久保真一、池田国昭
参加人数	64名
報告に対する質疑	なし
その他	なし

松本市議会議長 様

平成29年4月15日

上記のとおり報告します。

報告者 勝野 智行 ・ 犬飼 明美

議会報告会報告書（意見交換会）

開催日時	平成29年4月13日（木） 19:45～20:40
開催場所	松本大学（521講義室）
出席議員	村上幸雄、宮坂郁生、忠地義光、池田国昭、吉村幸代
参加人数	25名
意見交換	<p>テーマ名（ 防災 ）</p> <p>Q：災害が起きて緊急避難する際に、先ずは一次集合場所に集まるようにと指導されているが、このことについて前々から疑問を抱いている。自分の町会の一次集合場所に指定されている町内公民館は古い建物で、耐震性に問題があったりする。にもかかわらず、そこに一旦行くということの整合性が理解できない。また、島内地区に支援物資の受け入れ拠点をつくるという発表があったが、予定地は適切な場所なのか。災害時の安全性が確認されている場所なのか。</p> <p>A：自身の町会においても、町内公民館が一次集合場所に指定されている。こうした町内公民館のすべてが耐震性をクリアしているのか不明であり、心配なところは整備する必要があるだろう。</p> <p>A：例えば、勤務先などで被災した場合には一次集合場所へ行くことはできないから、直接、避難所へ行くことになるのではないか。支援物資受け入れ拠点の建設に関しては、熊本震災での経験を踏まえて、大量の応援物資を受け入れる場所が必要であることから計画されたもので、予定地は国道あるいは高速道路のインターチェンジに近いなど、交通の便も良い。</p> <p>A：一次集合場所の件は、前回の議会報告会（中央西ブロック）でも同様の意見が出された。有事の際に、学校や職場といった出先から町会へ一旦戻るといった想定には現実味がなく、避難訓練のあり方についても検討が必要といえる。災害時の物資集積拠点建設予定地は、松本盆地東縁断層に近いことから、地質調査をしてからの決定でも良かったのではないかという思いがある。平瀬橋の安全性も心配であり、安心できる場所かどうかについては、議会としても注目していきたい。</p> <p>Q：町内公民館の耐震診断を受けたところ、耐震工事の見積額が600～700万円だった。車も入れないような不便な場所の町内公民館であり、加入世帯150件ほどの町会規模で、何をどうしたものか悩ましい。松本大学を一次集合場所にできないものだろうか。市には、もっと現実的なことを検討してほしい。</p> <p>A：安否確認という意味合いがあって一次集合場所へ行き、その上で避難所として別の所が定められている。</p>

Q：自分の町会の町内公民館は大正時代の公会堂で、住民が寄付した建物であるが、会議中に地震がきたら簡単に潰れてしまうだろう。土地の固定資産税は減免してもらっているようだが、建替えは無理。ベストでなくとも、せめてベターを教えてください。

Q：我が町会の町内公民館も耐震診断を要する古い建物で、一度洗い直しが必要だと感じる。災害時に独り暮らしの高齢者をどうやって運ぶかが悩みの種、マニュアルでも作成できないものか。また、地区内の寺に立派な仏像があるが、こうした文化財への対応はどう考えたら良いのか。一次集合場所には、「安否確認」および「役割分担の確認」という意味合いがあるものと理解している。松本大学のような私立学校は権利関係から使用できないと思うが、指定されている避難所が他地区の学校だったりしている。他地区の知らない方々と一緒に避難するのが嫌というわけではなく、地域づくりの取組みの括りや観点とかけ離れているという点において、もっと血の通った計画は立てられないものかといった思いがある。畑にビニールハウスがあれば急場をしのぐことも可能であり、「一律ここへ」という避難がすべてではないと感じる。

A：松本市が作成した防災マップに様々な情報が記載されているので、活用してほしい。避難所の建物の安全性や補助金の問題などについては、再チェックを求めている。

Q：一次集合場所は安否確認を目的としており、モデルケースとしては良いが、一律でなく、大切なことは何かを整理した上で、地域の特性に応じた方向付けを指針にして体制を整えるよう、働きかけてほしい。

A：市は地域の実情に合わせて考えていると思う。例えば、奈川地区は、集落が川沿いに17kmにわたって存在する。公民館も川沿いにあるから集合場所としては危険であるが、そういったことを踏まえて地区から希望・意見を出せば、市は尊重してくれる。

Q：市立病院の移転・建設計画が進められ、建設候補地の具体的な検討も始まっていると報道された。候補地は広大なようなので、ヘリポートをつくって災害時の医療拠点とできないものだろうか。焼岳の噴火にも対応可能であろう。

A：宮地エンジニアリング工場跡地は54,000㎡であり、34,000㎡あれば病院は建設できるそうだ。確かに、防災拠点としての対応もできそうな広さである。

	<p>Q：富山県の防災センターを見学した。あのような拠点が長野県にもできたらと思っている。</p> <p>A：市立病院の建設計画に関しては、専門家らによって構成される市立病院建設検討委員会において熱心な検討が重ねられており、ヘリポートの話も出ている。防災センターについても、市役所の新庁舎構想に入っているようなので、もうしばらくお待ちいただきたい。</p> <p>Q：地区防災会の副会長をしているが、任期が1年のため、市の防災訓練の安否確認をする程度で終わってしまう。これでは取組みが何も進まないで、会長だけでも市から委嘱するなどして、長期的に取り組むようにできないものかと思っている。</p> <p>Q：自分の地区では、防災規約を整備した。役員の任期等についても、地区で決めれば良いのではないか。</p> <p>Q：自分の地区は4つの部会を設置しており、役員は交代するが、部長は長期的に努めている。</p> <p>A：それぞれの地区において、様々な取組みがなされている。有意義な意見交換であった。議会としても、防災力のさらなる強化に向けて力を尽くしていく。</p>
その他	<p>Q：日本の人口は2065年には8,800万人になるというような報道があったが、その頃、松本市はどうなるのだろうか。恐らく激減するのだろうか、そうした人口減の流れの中で、議員定数はこのままで良いのか。31人という定数を、議員たち自らで決めるのはおかしい。部外者も入れて検討すべきではないのか。</p> <p>A：松本市議会は、不断の議会改革に努めることを決め、地方自治の本旨に則って議会条例を策定。議員定数にしても、様々な市民の方のご意見をお聞きし、それを受けて議論を重ねた結果、現在の定数31にしたものなので、是非ご理解いただきたい。</p> <p>意見：今年度は町会長になったことから、議会報告会に初めて参加した。今日は議員の方々と直接に話せて、とても良かった。</p>

松本市議会議長 様

平成29年4月17日

上記のとおり報告します。

報告者 吉村 幸代

議会報告会報告書（意見交換会）

開催日時	平成29年4月13日（木） 19：45～20：30
開催場所	松本大学（532講義室）
出席議員	上條温、阿部功祐、犬飼信雄、大久保真一、川久保文良
参加人数	22名
意見交換	<p>テーマ名（ 地域公共交通 ）</p> <p>Q：バスの本数が少ない。西部地域コミュニティバスは、平田駅、村井駅には行くが利用率が低いのではないか。</p> <p>A：市の考えは新村駅と公共の駅に繋ぐこととしている。地域の声として理事者側に伝えていく。また、様々な形で地域公共交通を維持している。地域と議員、理事者と一体となって問題解決にあたって欲しい。</p> <p>Q：上高地線を延長し、信大病院まで延線することが渋滞対策となるのでは。</p> <p>A：松本駅東側へは、バス路線が充実しているが、市でも次世代交通の検討をしている。議員もドイツへ自費で研修に行くなど勉強はしているが、松本市ではもう少し研究が必要である。</p> <p>Q：松本市は国道19号や国道158号など、他の同規模都市に比べハード面で非常に遅れている。他都市に追いつくようハード面の整備を進めて欲しい。</p> <p>A：松本は城下町で道幅が狭く、一方通行が多いのが欠点。議会もそれぞれ議員連盟を作り、理事者、沿線地域の皆さんと国、県に要望活動を続けている。</p>
その他	<p>新村地区プチ送迎ボランティア原田事務局長より、現状と今後の課題についての説明があり、平成24年から現在まで利用者1,600人、600回の運行があり、買い物客が減り、病院は地区内の医院から地区外への医院への希望が多くなっており、今後この要望に応えるため、コミュニティバスや上高地線との連携の必要性を再認識している事、運転者も70歳を超え、高齢者の事故が連日のように報道されていることから徐々に減少しており、今後運転者の確保が大きな課題であるという説明があった。</p>

松本市議会議長 様

平成29年4月14日

上記のとおり報告します。

報告者 川久保 文良

議会報告会報告書（意見交換会）

開催日時	平成29年4月13日（木） 19:45～20:35
開催場所	松本大学（512講義室）
出席議員	青木崇、上條俊道、澤田佐久子、犬飼明美、勝野智行
参加人数	9名（学生1名、インターシップ3名、教員2名、地域の方3名）
意見交換	<p>テーマ名（若者参加の仕組み作り）</p> <p>意見（地域づくりについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学生になってから、授業の一環でもあったので地域づくりに関わってきた。 ・ 大学卒業後3年間東京へ行っていたが、地元に戻って現在「食」の面でインターンとして芳川地区の高齢者や子どもと関わっている。ここで育った子どもたちが将来帰ってくれる場所にしたい。 ・ この春卒業してインターンシップで本郷地区に。まず、地域を知ることから。本郷地区は温泉街で、市街地とは大きな違いがある。 ・ 現在、農業を営んでいるが、同業の付き合いで情報が入った。昔は、近所を歩いている子がどこの家の子かわかった。 ・ 生まれた所から出ていないので、困ったと感じたことがない。役員もずっとやってきた。 ・ 幼いころからの同級生を通じて地域を知ってきた。今、行政が地域づくりと言っているが、本当は、お祭りなど下から盛り上がるのが地域づくりかな、と感じる。 ・ ずっと住んでいると、近所とも顔見知り野菜をもらったりする。地域に愛着がある。 <p>Q（議員）：若い人たちは、どんな風に話せば地域に入ってもらえるか。</p> <p>A（参加者）：お祭りへの参加や消防団への加入。始めは年代の離れた人との会話は難しいと思ったが、中に入ると次第に気兼ねなく話せるようになった。</p> <p>A（参加者）：今は青年団という組織が無い。昔、青年団に入っていた人が、今は高齢者クラブ。婦人会も殆ど無くなってしまったが、地域づくりで継承できれば。</p> <p>A（参加者）：地域づくりをインターンとしてやっているが、これは今風なのかと思う。地域の課題を把握して1年、2年、3年と。でも地区からは外様。</p> <p>A（参加者）：昔は様々な地域の団体に入るのが楽しみだった。今は別の楽しみ、個人の楽しみが増えてきた。</p>

	<p>A（参加者）：地域に頼る、情報を得るといった必要性を感じていない。</p> <p>A（参加者）：役員をしている母親と三九郎に参加してみた。今、伝統文化を教えてくれる人がいる時に、無くさない努力が必要と感じている。</p> <p>Q（議員）：どうしたら地域に参加してみたいと思うか。</p> <p>A（参加者）：若い人は、忙しいし、手のかかることは面倒くさいと思っている。自分の時間が増えればと思うが、余裕がない。</p> <p>A（参加者）：体育大会に参加して地域の人と仲良くなった。運動会など楽しみの場で地域とつながる。</p> <p>A（参加者）：町会の飲み会。世代を超えた交流の場。前任の町会長に誘われて参加した。世代を超えて呼びかけを。</p> <p>A（参加者）：最近は、なかなか本人と会えない。会って話ができれば勧誘もできる。仲間ができることが大事。</p> <p>A（参加者）：声をかけることが大事。</p>
その他	なし

松本市議会議長 様

平成29年4月14日

上記のとおり報告します。

報告者 勝野 智行